

<目的>しばしば、「ものづくりのみではない家庭科」を追究することは家庭科にとって大切であるといわれる。しかし、「ものづくりのみではない家庭科」と一言でいうが、一致した具体例を示すことは難しい。ここでは、「ものづくりのみではない家庭科」の具体的な授業例を示して内容上の違いを明らかにすることを目的とする。

<方法>はじめに、「ものづくりのみではない」家庭科の授業をかたちの上で分類する。そのなかで、特に「ものづくりを教えるが、従来の家庭科の授業にない何かを探る」タイプの授業にポイントを絞って「ものづくりのみではない」内実を明らかにする。このタイプの授業では「ものづくり」をおこないつつ「ものづくりのみではない」ことをめざしており、もっとも分かりにくいからである。分析を具体的にするため、本稿では被服領域でのものづくり・「着るものをつくる」授業を前提にしてすすめることにする。

<結果>「着るもの」を子どもたちにつくらせる時、学習過程は以下のように分けてとらえることができる。①動機づけ、②ものづくりの道具や材料の用意、③型紙の補正、④裁断と布などの特徴の把握、⑤ミシンづかい、⑥縫いの技術の六段階である。この過程で子どもたちがどのように学ぶかを検討した。その結果、「ものづくりのみではない」授業をしているととらえることができる授業には以下のような特徴があることが分かった。①子どもたちの「学ぶ意欲」を重視している。②「着るものづくり」には、子どもたち自身の体験を経なければ学ぶことができない教育内容が含まれていることを前提にして授業が構成されている。③しかし、従来の「着るものづくり」の方法に甘んじてはいない。